

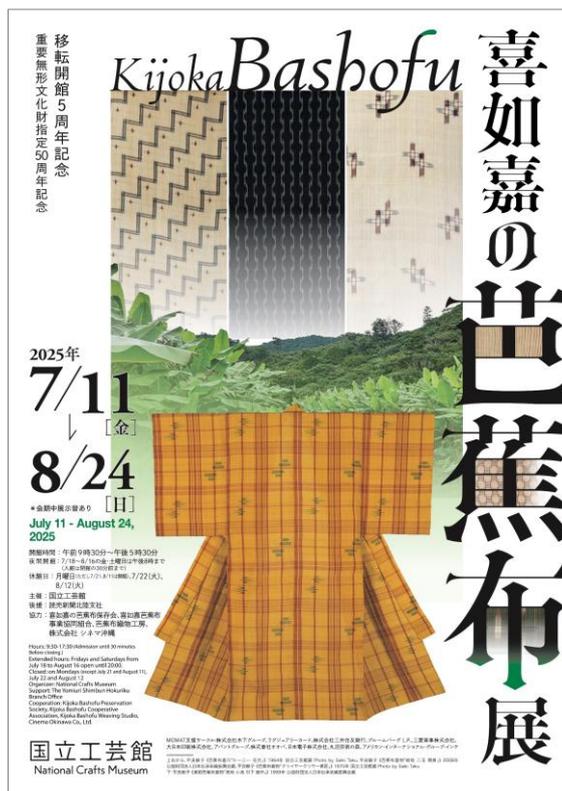
移転開館5周年記念 重要無形文化財指定50周年記念

き じょ か ば しょう ふ  
**喜如嘉の芭蕉布展**

Kijoka Bashofu

—In commemoration of the 50th anniversary of its designation as an Important Intangible Cultural Property  
and the fifth anniversary of the museum's relocation

7月11日(金) ~ 8月24日(日)



会 期：2025年7月11日(金)～8月24日(日)

会期中5回展示替えあり

〔日程 A:7/11(金)～7/27(日) B:7/29(火)～8/11(月・祝) C:8/13(水)～8/24(日)〕  
D:7/11(金)～8/3(日) E:8/5(火)～8/24(日)〕

開館時間：午前9時30分～午後5時30分(入館は閉館の30分前まで)

夜間開館：7月18日(金)～8月16日(土)の金・土曜日は午前9時30分～午後8時(入館は閉館の30分前まで)

休 館 日：月曜日(ただし7月21日、8月11日は開館)、7月22日(火)、8月12日(火)

観 覧 料：一般 900円(800円) / 大学生 600円(500円) / 高校生 400円(300円)

\* ( ) 内は20名以上の団体料金および割引料金

\* いずれも消費税込

\* 中学生以下、MOMAT支援サークルパートナー企業(同伴者1名まで、シルバーパートナーは本人のみ)、障害者手帳をお持ちの方と付添者(1名)は無料。

\* 夜間開館日の午後5時30分以降は割引料金。

\* 着物でご来館の方、文化の森おでかけパス(一般のみ)をお持ちの方は割引料金。

\* キャンパスメンバーズ加入校の学生・教職員は、学生証・職員証のご提示で割引料金。

\* 石川県立美術館・金沢21世紀美術館・石川県立歴史博物館・石川県立伝統産業工芸館(いしかわ生活工芸ミュージアム)・金沢市立中村記念美術館・金沢ふるさと偉人館の主催展覧会入場券半券を窓口で提示した方は割引料金。

\* オンラインによる事前予約もあり

主 催：国立工芸館

協 力：喜如嘉の芭蕉布保存会、喜如嘉芭蕉布事業協同組合、芭蕉布織物工房、株式会社 シネマ沖縄

後 援：読売新聞北陸支社

掲載用問い合わせ先：050-5541-8600(ハローダイヤル)

# 人間国宝、故・平良敏子氏と工房の作品を中心に 国宝を含む喜如嘉の芭蕉布を約70点ご紹介します

## 展覧会概要

芭蕉布は、糸芭蕉の繊維を糸にして織られた「沖縄の風土が生んだ最も沖縄らしい織物」で、琉球王国時代からつくられてきました。現在では、沖縄本島の大宜味村（おおぎみそん）喜如嘉で、村の婦人たちによってその製法が伝承されています。

喜如嘉の芭蕉布は、糸芭蕉を育てることからはじまり、収穫後の糸づくり、染め、織りまで、すべてが天然の材料と手仕事によって製作され、緋（かすり）の技法を用いた独特な模様が特徴となっています。

本展は、「喜如嘉の芭蕉布」が重要無形文化財の指定を受けてから50周年の節目にあたり、戦後に滅びかけた芭蕉布の技術復興に尽力した人間国宝、故・平良敏子とその工房の作品を中心に、芭蕉布の歴史的名品もあわせて芭蕉布の魅力を紹介합니다。

※会期中に展示替えを行います。

## 本展のみどころ

- **重要無形文化財の指定50周年の節目にあたる「喜如嘉の芭蕉布」に注目**  
糸芭蕉の繊維を糸にして織られた「沖縄の風土が生んだ最も沖縄らしい織物」の魅力に迫ります。
- **戦後に滅びかけた芭蕉布の技術復興に尽力した人間国宝、故・平良敏子とその工房の作品を多数展示**  
緋技法を用いた多彩な模様の数々を是非ご覧ください。
- **琉球王国ゆかりの国宝5点を含む名品を展示**  
歴史的名品から現代の芭蕉布までその魅力をご紹介します。

## 展示構成

### 第1章 歴史のなかの芭蕉布と文様の美

沖縄県はかつて琉球王国と呼ばれ、独自の文化を育んできました。さらりとした風合いと適度に張りがある芭蕉布は、高温多湿の沖縄の気候に適した布として、尚王家から庶民にいたるまで広く愛用されてきました。

芭蕉布は、糸芭蕉の茎の繊維を糸にして織られます。とくに王族や上流階級向けには華やかな色合いに身近なモチーフが織り込まれ、洗練された布地がつくられました。明治になり琉球王国がなくなった後もその伝統は受け継がれてきましたが、第二次世界大戦の影響により、いったんは途絶えてしまいます。

1章では、上質な糸を天然の染材で染めて織り上げた芭蕉布の歴史的名品とともに、王族が身に纏った豊かな色彩と伝統の緋柄の復元に取り組んだ平良敏子が開いた芭蕉布織物工房による多彩な芭蕉布をあわせて紹介します。



No.5

### 第2章 平良敏子の芭蕉布－わざの確立と展開

岡山県倉敷市で染織に関する基礎的な技術や知識を学んだ平良敏子は、戦後、故郷である沖縄本島北部の大宜味村喜如嘉に帰り、芭蕉布の制作に取り組みます。しかし、マラリアの伝染をおそれて糸芭蕉の畑が焼き払われていたため、苗を植えることから始め、3年かけて育て上げます。収穫後の糸づくりから、染めの工程、織りまでのすべてが天然の材料と手仕事によるもので、多くの人の手を必要としました。平良の真摯な姿勢とともに、緋模様の表現力と色彩への鋭い感覚が人々に受け入れられて、1963年には芭蕉布織物工房を開き、1974年には仲間たちと結成した喜如嘉の芭蕉布保存会の会長となり、地元のリーダーとして芭蕉布の復興に尽力します。古典から学びながらも、緋模様独自性を発揮するなど、その存在感を知らしめていきました。

1974年、「喜如嘉の芭蕉布」が国の重要無形文化財に指定（総合指定）され、平良敏子が保持者（代表者）として認定されます。2000年には重要無形文化財「芭蕉布」の保持者（各個認定）に認定され、2022年に101歳で生涯を終えるまで、芭蕉布の制作と後進の指導にあたり、芭蕉布を沖縄でもっとも知られる織物にしました。



No.8

### 第3章 想いをつなぐー芭蕉布のみらい

喜如嘉の芭蕉布保存会は、1975年の文化財保護法の改正に伴い、翌年にあらためて重要無形文化財「喜如嘉の芭蕉布」の保持団体として認定(団体認定)を受け、芭蕉布の生産技術を絶やさず未来に残すことを目的に伝承者養成事業を展開しています。平良敏子が設立した芭蕉布織物工房は養成事業の受け皿となり、喜如嘉の芭蕉布の伝統を守り伝える工房としての役割も担い、現在も積極的に活動して若い技術者を育てています。

芭蕉布は糸芭蕉の栽培から織りまで、完成までにいくつもの工程を経て作り出されます。個と集団がバランスよく交わることで、工房では古典の研究とともに、平良敏子が果敢に取り組んだ縞模様の古典と現代の融合や独自の模様の創出、また、これまでの芭蕉布では織られていなかった衣裳様式などにも挑戦し、時代に即した試みも行われています。平良の想いを受け継ぎながら、このような時代を意識した制作スタイルはこれからの芭蕉布の価値観を広げていくことなのでしょう。



No.10

#### 関連ワークショップ

#### 芭蕉布を羽織ってみよう / 立礼茶席で呈茶

日 時：7月26日(土) 第1部 午後1時15分～午後2時30分/第2部 午後3時15分～午後4時30分  
講 師：平良 美恵子氏(喜如嘉の芭蕉布保存会会長) 会 場：国立工芸館 多目的室  
奈良 宗久氏(一般財団法人茶道裏千家 今日庵業躰(正教授方)) 定 員：各回10人(中学生以上)  
参加費：有料(3,000円/人) ※要事前申込  
主 催：兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会(石川県文化振興課内)

#### 記者発表会・内見会

#### 7月10日(木) 午前11時30分～午後1時(受付開始 午前11時30分)

(記者発表 午前11時50分～午後0時30分)

一般公開に先駆けて報道関係の皆さまのみの発表会および内見会を行います。  
参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXでご連絡ください。

#### 次回展予告

移転開館5周年記念

#### ルーシー・リー展 -東西をつなぐ優美のうつわ-

9月9日(火)～11月24日(月・休)

イギリスで活躍した20世紀を代表する陶芸家ルーシー・リー(1902-1995)。その作品は優美な形、色彩で今も多くの人々を魅了し続けています。本展では、当館に寄託されている井内コレクションを中心に彼女が出会った人、もの、場所、時代背景を交えながら魅力の源泉を紐解きます。洋の東西を越えた造形世界をぜひご堪能ください。

ルーシー・リー《ブロンズ釉花器》  
1980年頃  
井内コレクション(国立工芸館寄託)  
撮影：品野壘



**国立工芸館**  
National Crafts Museum

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2  
<https://www.momat.go.jp/craft-museum>



アクセス バスにて JR金沢駅兼六園口(東口)より  
【北鉄バス】

3番乗り場：乗車、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分  
6番乗り場：乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩5分  
8番乗り場：乗車、「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分

車にて 北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。  
近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります。

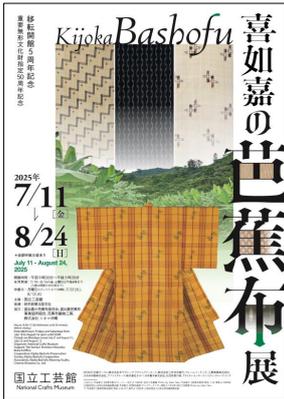


報道関係の方の  
お問い合わせ先

国立工芸館 広報事務局(株式会社OHANA内)

Tel: 03-6869-7881 Fax: 03-6869-7801 E-mail: [ncm@ohanapr.co.jp](mailto:ncm@ohanapr.co.jp)

## 広報用画像一覧



No.1 展覧会チラシ



No.2  
 平良敏子《芭蕉布着物「クワイヤー  
 クッサー 番匠」》1970年代  
 国立工芸館蔵 撮影：斎城卓  
 [通期展示]



No.3  
 平良敏子《芭蕉布着物「クワイヤー  
 クッサー 番匠」》(部分) 1970年代  
 国立工芸館蔵 撮影：斎城卓  
 [通期展示]



No.4  
**国宝**  
 《黄色地経縞柵形文様緋芭蕉衣裳》  
 [琉球国王尚家関係資料] 18-19世紀  
 那覇市歴史博物館蔵 [C日程展示]



No.5  
**国宝**  
 《緋色地柵形菱縷文様花織芭蕉衣裳》  
 [琉球国王尚家関係資料] 18-19世紀  
 那覇市歴史博物館蔵 [B日程展示]



No.6  
 平良敏子《煮総芭蕉布着物「黄地  
 小鳥 引下 綾中」》1999年  
 公益財団法人 日本伝承染織振興会蔵  
 [E日程展示]



No.7  
 平良敏子《煮総芭蕉布 琉装着物「黒朝」》  
 2010年  
 公益財団法人 日本伝承染織振興会蔵  
 [通期展示]



No.8  
 平良敏子《煮総芭蕉布 琉装着物  
 「ムディー綾 番匠くずし」》1996年  
 公益財団法人 日本伝承染織振興会蔵  
 [通期展示]



No.9  
 平良敏子《煮総芭蕉布 琉装着物「赤地  
 花織」》2013年  
 公益財団法人 日本伝承染織振興会蔵  
 [E日程展示]



No.10  
 喜如嘉の芭蕉布保存会《煮総芭蕉布  
 着物「朱地 綾中」》1992年  
 東京国立博物館蔵 [通期展示]



No.11  
 大宜味村喜如嘉の芭蕉畑  
 沖縄県立博物館・美術館提供  
 撮影：消忠之

\* 上記画像No.1~11を広報用にご提供いたします。  
 ご希望の方は当館ホームページの画像提供システムよりお申し込みください。  
<https://www.momat.go.jp/craft-museum/reproduction>



\* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券(5組10枚)をご用意しております。  
 ご希望の方は画像申請の際に「その他」欄よりお知らせください。

きじよか ばしようふ  
喜如嘉の芭蕉布展 関連ワークショップ

沖縄の伝統工芸「芭蕉布」

の着衣体験に続き、  
この日限定の  
「立礼茶席」で  
沖縄の伝統菓子  
をご堪能ください。



沖縄の伝統菓子と一服

芭蕉布を羽織ってみよう

2025年

7月26日[土] 要事前申込

【第①部】午後1時15分～午後2時30分(開場 午後1時)

【第②部】午後3時15分～午後4時30分(開場 午後3時)

会場：国立工芸館多目的室

参加費：3,000円(現金のみ)

定員：各回10名(先着順、中学生以上)



展覧会詳細は  
こちらから



お申し込み  
お問い合わせ

WEBフォーム(右記)またはお電話でお申し込みください。

☎ 076-225-1371(平日9時～17時)

主催：兼六園周辺文化の森等活性化推進実行委員会(石川県文化振興課内)



## ◆沖縄の風土が生んだ、涼しげな着心地を体験

芭蕉布は糸芭蕉の繊維を糸にして織られた「沖縄の風土が生んだ最も沖縄らしい織物」です。当日は、喜如嘉の芭蕉布保存会の平良美恵子会長の手ほどきで、実際に芭蕉布を羽織っていただきます。戦後、滅びかけた芭蕉布の復興に尽力した人間国宝・平良敏子氏の作品も会場に展示します。じかに触れて、さらりとした手ざわりをお楽しみください。

## ◆琉球の味を楽しむ、この日限りの立礼茶席

普段は一般に公開していない国立工芸館多目的室に、1日限りの立礼茶席をしつらえます。明治建築のレトロな雰囲気の中、一般財団法人裏千家今日庵業躰(正教授方)奈良宗久氏の茶席で、お抹茶と琉球王国時代から伝わるお菓子をご堪能ください。



## ◆国立工芸館ならではの、気鋭の美術・工芸作家による茶道具



今回の呈茶で用いる茶道具は、2020年、国立工芸館が東京から金沢に移転したことを記念したクラウドファンディングによって、工芸・美術作家が手掛けたものです。本物の工芸作品を手に取り、形や質感、その卓越した技術をご体感ください。

### 【体験講師】

たいら みえこ  
**平良 美恵子 氏** きじよか ばしようふ  
喜如嘉の芭蕉布保存会会長

人間国宝・平良敏子さんの義娘で、喜如嘉の芭蕉布伝承生として芭蕉布制作に従事する。芭蕉喜如布会館を運営管理する喜如嘉芭蕉布事業協同組合の理事長や、沖縄県工芸産業協働センターの副理事長も務める。

2002年から2019年 沖縄県立芸術大学非常勤講師  
2022年 沖縄タイムス芸術選賞功労賞表彰  
2023年度 文化庁長官表彰  
2023年 卓越した技能者(現代の名工)の表彰



なら そうきゆう  
**奈良 宗久 氏** ぎょうてい  
一般財団法人茶道裏千家 今日庵業躰(正教授方)

1969年金沢生まれ。父の十代大樋陶治齋に師事し、玉川大学在学時から美術、工芸作家として日展、日本現代工芸美術展にて出品を重ねる。裏千家学園茶道専門学校を経て、裏千家今日庵に入庵し、2002年、茶名「宗久」を鵬雲齋千玄室大宗匠より賜る。

2017年に坐忘齋御家元より正教授方を拝命し、現在は業躰(宗家直下の指導者)として国内外の茶道普及に努め、金沢では茶道教場「好古庵」を主宰し、また東京をはじめ全国にも指導に出向いている。石川県文化奨励賞、北國芸術賞など受賞多数。京都芸術大学客員教授などを経て、現在は金沢美術工芸大学非常勤講師兼茶道部指導。作品は「ドイツ国立ベルリンアジア美術館」「草月美術館」「裏千家今日庵」に收藏されている。茶道教場「好古庵」<https://kokoan-kanazawa.com/>

